

黄泉を主軸にした編成では、単純に会心率や会心ダメージを伸ばすだけでなく、残夢をどの行動で増やすかを先に決めることが重要です。火力が不足しているように見えても、実際には必殺技の回転が遅く、敵の弱点や行動順に合っていないケースが少なくありません。

最初に確認したい編成の役割

黄泉は必殺技の発動頻度が戦闘全体の安定性を左右します。編成を組むときは、デバフを継続して付与できる味方、行動回数を確保できる支援役、事故を防ぐ耐久役の三つを分けて考えます。誰が残夢を供給するかを明確にすると、速度調整や光円錐の選択に一貫性が生まれます。

手持ちが限られる場合は、最高レアリティだけで固める必要はありません。デバフの成功率、SP消費、行動順を確認し、黄泉の必殺技まで途切れずにつながる編成を優先してください。関連する前提や最新の育成情報は[運用のコツを読む](#)もあわせて確認すると判断しやすくなります。

遺物は実戦の不足から選ぶ

遺物はセット効果だけで決めず、会心率、会心ダメージ、攻撃力、速度の順に実戦で不足している項目を確認します。会心率が低い状態で会心ダメージだけを伸ばすと火力の振れ幅が大きくなるため、まず安定して会心が出る基準を作り、その後にダメージを伸ばす方が再現性があります。

- 会心率が不安定なら、サブ効果を含めて安定ラインを優先する
- 残夢の供給役より先に動きたい場合は、速度の並びを実戦で確認する
- 攻撃力は会心と速度を崩さない範囲で伸ばす
- オーナメントは発動条件を毎回満たせるかを基準に選ぶ

光円錐と編成コストの考え方

モチーフ光円錐は強力ですが、編成全体の不足を解決できるとは限りません。黄泉本体の火力、残夢の供給速度、耐久の安定性を分けて評価し、どこに投資すると戦闘時間が短くなるかを比較します。代用光円錐でも役割を満たせる場合は、支援役や耐久役の育成を先に進めた方が総合的な改善につながります。

実戦前の確認手順

1. 黄泉の会心率と会心ダメージを確認する
2. 各キャラクターの初動とSP収支を一周分だけ試す
3. デバフが途切れる場面と残夢が不足する場面を記録する
4. 速度か光円錐のどちらを変えるべきか、一項目ずつ比較する

一度に多くの装備を変更すると改善点が分かりにくくなります。必殺技までの行動数、戦闘終了までのターン数、耐久役の余裕を基準に一項目ずつ調整すると、素材を無駄にせず仕上げられます。

まとめ

黄泉編成では、残夢の供給、会心の安定、行動順の三点を同時に整えることが重要です。遺物や光円錐の評価だけに頼らず、実戦で必殺技が何行動ごとに使えるかを確認し、編成全体の再現性を高めてください。

黄泉の残夢供給、会心、速度、遺物、光円錐を実戦の行動順から確認する専門ガイドです。装備変更前後の必殺技回転を比較し、素材効率を保ちながら編成を整えます。